

# TOREK 自然農法 ホットニュース

第 127 号 2008.11.25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。



各地からさまざまな種類の稲穂が届けられた

また、今年の夏季農産展から展示方法が作物別から生産者別に変わったことで、「自然農法の作物って美しいな！」と改めて感じました。以前のように同じ作物がズラッと並ぶのも、比較などの意味で良かったのですが、今回、それぞれ実施者の作った作物ごとの展示で、コメントもあり、その方の取り組みや心がこめられた、まるで芸術作品を鑑賞するかのようで、係の方も、この展示にしてから、来場者の会場にとどまる時間が長くなっている、と言って喜んでいました。



11月16日の販売の日も盛況で、消費者と生産者の交流している姿が良かったです。あこがれの生産者と親しく話している満足そうな方もいましたし、「具合が悪くなった身内がこの米を食べることができたので、また買いに来ました！」と感謝を伝える人、自然農法の食材の豚汁の味も絶妙で、「なんか食べて希望がわいた」と言う青年もいました。展示・販売両日ともに、いい農産展だったなと素直に思いました。

## 実施者が少しずつ増えている農産展！

11月3日、農産展会場に足を運びました。「実施者が増えて良かったな」と。昨年秋 66 名だった出展者数が今回は 94 名に、しかも写真出展をあわせると 100 名を超えたとのこと。農産展が始まって 30 年の今年、「新規実施者を奨励していく」という TOREK 自然農法の目標が少しでも進展している様子を会場で見ることができ、自然農法普及を願う身として、うれしかったです。



## 今年の稲刈り体験報告 福井県 池田町 編

「今年の稲作を一言で表すと？」と聞くと、即座に「挫折です」と言う富田さん。確かに今年はスタートの育苗からつまずく。水を張ったハウスで苗を育てるプール育苗で障害が出て、苗は赤くなり、ササニシキは植えることができなかった。コシヒカリは決して健苗とは言えないが植えることはできた。不足した分、石川県の森さんより有機栽培の苗を分けてもらい、田植えをした。それは全体の 16% ほど。

俗に苗半作とか苗七分作と言われるが、これは米作りの半分または七割は苗作りで決まるという意味、苗作りがいかに大切かがうかがえる。田植え機にセットできる苗を育てるには、縦 30、横 60 センチの苗箱に薄土を入れ、そこに 1~2 カップの種籾を播いて育てなければならない。これは農薬と化学肥料を使用することを前提として開発された方法。この条件で無施肥無農薬の苗を育てることは至難の業で、自然農法の大きな課題のひとつと言える。

富田さんは田植え後、小さな苗が雑草に負けないように除草に取り組んだ。2町3反の田んぼに最低3回、草のひどい所は5回も6回も除草機を入れた。努力のかいあって、条間はきれいに草が取れている。しかし機械除草の限界か、株間には雑草が残り、草の多い所は稲の生長も悪い。

今回、富田さんの稲刈りを手伝って、一つ一つの作業工程に少しも手を抜かない富田さんの姿を見



た。例えば、田んぼに重さをかけないため、コンバインの中のお米をこまめにトラックに搬出するとか、コンバインのチェーンや刃に使うオイルは植物性の特別な機械油を取り寄せるなど。そして稲の乾燥、籾摺り、精米、すべて無施肥専用のラインを使い、農薬、肥料を始めとする、あらゆる化学物質を排除しようという心意気を感じられる。

先日、富田さんは TOREK 自然農法農産展に参加され、主催者代表から「自然農法実践者として誇りを持つこと」「そして自然を甘く見てはいけない」という言葉をもらい、とても勇気を頂いたと喜んでいました。早速、来年に向けて何種類かのコシヒカリ以外の無施肥の種籾を入手し、来年に向けて始動した。無施肥 3~4 年の今年、一番つらい時期かもしれないが、ぜひがんばってほしい。

稲刈りの日に話を戻す。私は東京に戻る最終電車に乗るため、後ろ髪を引かれる思いで武生駅に向かった。日が暮れ、風が冷たい田んぼの脇で、明日の稲刈りにそなえ、コンバインの清掃、整備をもくもくと続ける富田さんの姿に、来年こそはという決意を感じた。（編集部 関谷）

## 自然農法始めました！

八王子市 福島和子



私の一日は、無施肥無農薬栽培の一杯のご飯から始まります。また普段、野菜などを買うときは、できるだけ農薬を使っていないものを選んでいきます。

私は以前、潰瘍性大腸炎という病気と、その為に使用した薬（ステロイド）の副作用で、なかなか食がすすまなくなりました。そのとき、無施肥無農薬栽培のものを口にするだけで、少しずつ食欲も増してきて、元気になることができました。お陰様で今では薬も使っていません。そして、いつか自分でも無施肥無農薬栽培の野菜を作りたいと思うようになりました。

今年の5月、念願がなって3坪の市民農園を借りることができ、夫と野菜作りをスタートしました。まずミニトマト、ナス、ブロッコリーなどの苗を植え、ニンジン、ダイコン、ハツカダイコンの種をまきました。

ハツカダイコンは 30 日くらい畑にあったので、ピンポン玉くらいの大きさになりました。あまり大きいので味は期待していなかったのですが、すぐ入ることもなく、みずみずしくてとてもおいしく、無施肥無農薬栽培の本来の力にびっくりしました。逆に、ニンジンは、長く畑においておいたら大きく育つだろうと思い、葉が枯れてきた頃に抜いてみました。ところが割れていたり、ひげのような根がたくさん出ていたりするものばかりでした。適切な収穫の時期を逃してしまったことが分かり、今後はどんな作物でもよく観察してきちんと収穫できるようにしようと思いました。

7月半ばから作物がたくさんとれはじめ、農産展にはニガウリ、ショウガ、ナスを出品することができました。

無肥料の野菜はとてもおいしく、人間に精神的な効果があり、病気もおこらず、人間関係が平和になる、と教えていただいています。

私は野菜が好きです。野菜をたくさん食べ、優しい気持ちで、これからは色々なものを作り、実際に体験した無施肥無農薬栽培の素晴らしさを多くの方にお伝えしていきたいと思っています。



土にふれていると体調がよくなることも実感しました！

お知らせ	自然農法頒布会	12月18日(木) 鎌ヶ谷会場	11:00~15:00 (売切次第終了)
		12月21日(日) 東中野会場	10:00~15:00 (売切次第終了)
	自然農法体験学習	1月12日(祝) 山本養鶏場(千葉県長生郡)	

無施肥無農薬栽培物の販売予定 12月3日 於：伊都能売会館  
生産者の方々が直接販売されます。 東京都八王子市長房町 57 042-665-6369

- きじま平自然農産：白米(1kg 1,000円)、しろ菜、納豆、きのこめし
- 市川生産グループ：煎茶
- 長柄山自然農園：卵、ダイコン、コマツナ
- 中島農園：チンゲンサイ、コマツナ、カブ、ダイコン、下仁田ネギ
- 富田善嗣さん：白米
- よしたい農園：白米
- ジョリフィーユ：プリン、マドレーヌ、ちょこっとティラミス、かぼちゃのモンブラン



お問い合わせ先：編集部 針貝 FAX: 03-3369-3324 e-mail: [naturefarming@torek.jp](mailto:naturefarming@torek.jp)  
TOREK活動のホームページもご覧ください。 <http://www.torek.jp>